みずほ日本オールキャップ株式ファンド

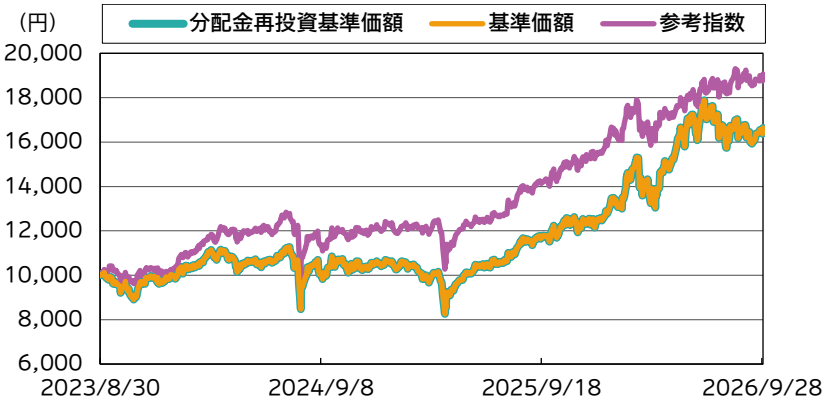
マンスリーレポート
2026年9月30日基準

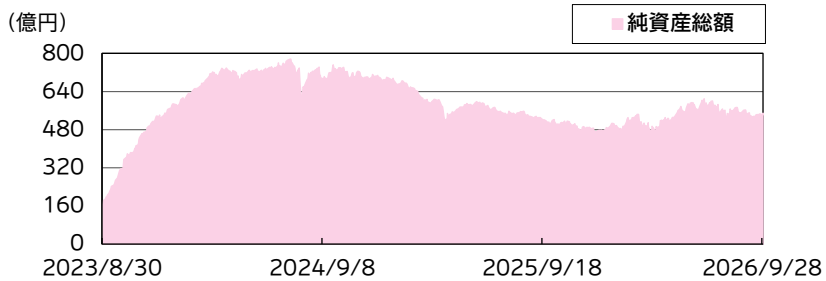
追加型投信／国内／株式

運用実績

運用実績の推移

（設定日：2023年8月31日）





※基準価額は、信託報酬控除後の価額です。設定前営業日を10,000円として指数化しています。なお、信託報酬率は「ファンドの費用」をご覧ください。
※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。
※参考指数は、東証株価指数(TOPIX)(配当込み)です。設定日を10,000円として指数化しています。指数についての詳細は後掲の「指数の著作権などについて」をご参照ください。

分配金の実績(税引前)(直近3年分)

期	決算日	分配金(円)
第1期	2024/08/16	0
第2期	2025/08/18	0
第3期	2026/08/17	0
設定来累計分配金		0

※分配金は、1万口当たりの金額です。
※分配金は過去の実績であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

基準価額・純資産総額

	当月末	前月末
基準価額(円)	16,635	16,777
純資産総額(百万円)	54,933	56,294

※基準価額は、1万口当たり。

	基準価額(円)	基準日
設定来高値	17,885	2026/06/22
設定来安値	8,261	2025/04/07

※同一の基準価額が複数ある場合、直近の日付を表示しています。

騰落率(税引前分配金再投資)(%)

	ファンド	参考指数
1ヵ月	-0.8	-0.3
3ヵ月	-3.4	3.8
6ヵ月	27.5	18.7
1年	41.2	33.9
3年	73.5	89.7
5年	-	-
10年	-	-
設定来	66.4	90.7

※騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。
※各期間は、基準日から過去に遡っています。また、設定来の騰落率については、設定当初の投資元本を基に計算しています。

ポートフォリオ構成（%）

株式等現物	96.0
東証プライム	86.3
東証スタンダード	-
東証グロース	9.7
地方市場	-
その他新興市場	-
現金等	4.0
合計	100.0
株式先物	-
株式実質組入(現物＋先物)	96.0

※組入比率は、純資産総額に対する実質的な割合です。
※現金等の中には未払金等が含まれるため、比率が一時的にマイナスとなる場合があります。

当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、
投資信託説明書(交付目論見書)ではありません。
「投資信託に関する留意点」、「当資料のお取扱いについてのご注意」をよくお読みください。

Asset Management One　アセットマネジメントOne

規模別組入比率（%）

規模	組入比率
大型株	35.8
中型株	37.3
小型株等	26.9

※組入比率は、組入有価証券評価額に対する実質的な割合です。
※TOPIX構成銘柄のうち、時価総額と流動性が高い上位100銘柄を大型株、大型株に次いで時価総額と流動性が高い上位400銘柄を中型株とし、大型株、中型株に含まれない当ファンドの保有銘柄を小型株等としています。

組入上位10成長カテゴリー（%）

	成長カテゴリー	組入比率
1	エネルギー・環境材料	15.9
2	金融サービス	12.7
3	省力合理化	9.2
4	医薬品	6.7
5	モバイル機器	6.5
6	自動車・自動車部品	6.1
7	半導体製造装置	5.0
8	半導体材料	4.8
9	エンターテインメント	4.3
10	通信計測器	3.3

※組入比率は、純資産総額に対する実質的な割合です。
※成長カテゴリーは、製品・サービス等について、成長力や投資機会を見極めるために委託会社が独自に策定した分類です。

組入上位10業種 （%）

	業種	組入比率
1	電気機器	21.1
2	情報・通信業	9.7
3	銀行業	9.3
4	サービス業	7.6
5	機械	7.0
6	卸売業	6.8
7	医薬品	6.2
8	輸送用機器	5.3
9	非鉄金属	4.0
10	小売業	3.0

※組入比率は、純資産総額に対する実質的な割合です。
※業種は、東証33業種分類によるものです。

当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、
投資信託説明書（交付目論見書）ではありません。
「投資信託に関する留意点」、「当資料のお取扱いについてのご注意」をよくお読みください。

Asset Management One
アセットマネジメントOne

組入上位10銘柄（%）（組入銘柄数 86）

	銘柄 業種	組入 比率	成長カテゴリー／銘柄概要
1	三井住友フィナンシャルグループ 銀行業	3.9	【金融サービス】三井住友銀行、SMBC日興証券、三井住友カードなどを傘下に持つ総合金融グループです。国内では金利上昇や「Olive」などによるデジタル化により収益向上が見込めるほか、アジアを中心とした海外事業の成長も期待されます。
2	ソニーグループ 電気機器	2.6	【エンターテイメント】民生電機の大手メーカーです。世界シェアトップのCMOSイメージセンサー市場の成長に加えて、音楽、アニメ、映画、ゲームなどコンテンツの知的財産（IP）の活用を軸とした事業の成長が見込まれます。同社の良質なIPはファンコミュニティ拡大と、大衆人気化の両面による収益拡大が期待されます。
3	三菱UFJフィナンシャル・グループ 銀行業	2.3	【金融サービス】三菱UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、三菱UFJ証券ホールディングスなどを傘下に持つ総合金融グループです。顧客基盤の強化を通じた預金獲得と金利上昇を背景に堅調な業績成長が見込まれるほか、海外事業ポートフォリオの拡大も期待されます。
4	トヨタ自動車 輸送用機器	2.1	【自動車・自動車部品】世界首位級の自動車メーカー。強みのハイブリッド車と「もっといいクルマづくり」を通じた商品競争力が世界から高い評価を得ています。
5	NGK ガラス・土石製品	2.1	【エネルギー・環境材料】セラミックに対する高い技術を差別化要素としてエネルギーや自動車、デジタル製品向けにおいて独自の展開を行っており、高いシェアを有する部品を多数擁しています。環境・デジタルを注力分野とし、事業再構築にも取り組んでいます。
6	第一三共 医薬品	2.0	【医薬品】日本を代表する製薬会社の1社となります。独自の抗体薬物複合体技術を用いた複数の抗がん剤の開発に注力しています。抗がん剤の開発を通じてグローバルでの事業基盤強化を図っています。
7	日立製作所 電気機器	2.0	【エネルギー・環境材料】総合電機の大手企業です。同社はこれまでに多くの子会社や事業の再構築を進める一方で、複数の海外企業の大型買収を通じて、国内外における電力インフラの増強・更新需要の取り込み及び、IT事業の競争力強化が進展しています。なかでも再生エネルギーの導入に伴う電力インフラの再構築に関わる製品・サービス領域で高い成長が期待できます。
8	豊田通商 卸売業	2.0	【エネルギー・環境材料】トヨタグループの総合商社です。グループ企業による再生可能エネルギー事業や、買収によって強化したアフリカ事業など、独自の取り組みによる成長が期待されます。
9	ミスミグループ本社 卸売業	2.0	【省力合理化】生産自動化関連機器・金型部品の開発、製造、販売を手掛けています。インターネット上で商品を販売する事業の提供地域拡大や、顧客の作成データから必要な機械部品を即座に見積もり・加工・販売を行う独自の製品提供の仕組みの収益増による成長が期待されます。
10	りそなホールディングス 銀行業	1.8	【金融サービス】りそな銀行、埼玉りそな銀行などを傘下に有する持株会社です。国内金利に対する感応度が高く、金利上昇にともなう堅調な業績とROE改善が期待できるほか、デジタルバンクサービスなど外部企業との共創効果も期待されます。

※組入比率は、純資産総額に対する実質的な割合です。
※銘柄概要における【 】の中は、成長カテゴリーの分類を表しています。成長カテゴリーは、今後変更されることがあります。
※当該個別銘柄の掲示は、銘柄推奨を目的としたものではありません。

当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、
投資信託説明書（交付目論見書）ではありません。
「投資信託に関する留意点」、「当資料のお取扱いについてのご注意」をよくお読みください。

Asset Management One アセットマネジメントOne

マーケット動向とファンドの動き

9月の東証株価指数（TOPIX）は下落しました。
上旬は中東情勢の悪化に加え、米OpenAIのIPO（新規公開）延期報道を受けてAI開発の減速懸念が強まり、軟調に推移しました。下旬は日米の中央銀行による政策決定会合が市場想定どおりに通過した安心感から反発しましたが、月を通じては下落しました。
東証33業種別指数の騰落率では、上位は「石油・石炭製品」、「情報・通信業」、「銀行業」などが上昇した一方、「鉱業」、「その他製品」、「水産・農林業」などが下位となりました。
当ファンドの基準価額は前月末比マイナス0.8%下落しました。三井金属、スマレジなどが基準価額の下落に影響しました。

今後のマーケット見通しと今後の運用方針

今後の国内株式市場は、各国の金融政策の動向には留意が必要ですが、高市政権による経済対策などに下支えされ、堅調な業績成長から緩やかな上昇基調が続くものと予想します。
プラス材料としては、高市政権による積極財政や賃上げ期待、エネルギーコストの低下などを想定しています。一方でマイナス材料として、日本の金融政策とそれにともなう為替動向、AI関連の過剰投資懸念の高まりなどを想定しており、これらについては留意が必要と考えます。
当ファンドでは、引き続きアセットマネジメントOneの日本株リサーチ体制を活用しながら、徹底したボトムアップで企業の長期的な成長力の見極めを実施し、組入銘柄の見直し、新規銘柄の発掘に努めてまいります。

※マーケット動向とファンドの動きは、過去の実績であり将来の運用成果等をお約束するものではありません。また、見通しと運用方針は、作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

※当資料中の各数値については、表示桁未満の数値がある場合、原則、四捨五入して表示しています。
※当資料中の各数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、
投資信託説明書（交付目論見書）ではありません。
「投資信託に関する留意点」、「当資料のお取扱いについてのご注意」をよくお読みください。

Asset Management One
アセットマネジメントOne

ファンドの特色

信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。

1. 主として、わが国の金融商品取引所上場株式（上場予定を含みます。）に投資を行い、信託財産の成長をめざして積極的な運用を行います。
   - 日本オールキャップ株式マザーファンド（以下「マザーファンド」という場合があります。）への投資を通じて、わが国の金融商品取引所上場株式（上場予定を含みます。）に実質的に投資を行います。なお、マザーファンドの組入比率は、原則として高位を維持します。
   - 株式の実質組入比率は、原則として高位を維持します。

2. 銘柄調査と企業との対話に基づき、これからも日本を根幹で支えることができると判断される企業や、今後の成長を担うことが期待される企業を組入候補銘柄として選定します。

3. ポートフォリオ構築にあたっては、多様な成長機会を取り込むために、成長カテゴリー*を活用し、株価水準も勘案しながら分散投資を行います。
   ＊「成長カテゴリー」とは、製品・サービス等について、成長力や投資機会を見極めるために当社が独自に策定した分類です。

（分配方針）

年1回の決算時（毎年8月16日（休業日の場合は翌営業日））に、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を対象として、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
※分配金額は、分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

主な投資リスク

当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。**これらの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。**
また、投資信託は預貯金と異なります。
なお、基準価額の変動要因は、下記に限定されるものではありません。

● 株価変動リスク

株式の価格は、国内外の政治・経済・社会情勢の変化、発行企業の業績・経営状況の変化、市場の需給関係等の影響を受け変動します。株式市場や当ファンドが実質的に投資する企業の株価が下落した場合には、その影響を受け、基準価額が下落する要因となります。また、当ファンドは実質的に個別銘柄の選択による投資を行うため、株式市場全体の動向から乖離することがあり、株式市場が上昇する場合でも基準価額は下落する場合があります。

● 信用リスク

有価証券等の価格は、その発行体に債務不履行等が発生または予想される場合には、その影響を受け変動します。当ファンドが実質的に投資する株式の発行者が経営不安・倒産に陥った場合、またこうした状況に陥ると予想される場合、信用格付けが格下げされた場合等には、株式の価格が下落したり、その価値がなくなることがあり、基準価額が下落する要因となります。

● 流動性リスク

有価証券等を売却または取得する際に市場規模や取引量、取引規制等により、その取引価格が影響を受ける場合があります。一般に市場規模が小さい場合や取引量が少ない場合には、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないことや、値動きが大きくなることがあり、基準価額に影響をおよぼす要因となります。

お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位（当初元本1口＝1円）
購入価額	購入申込受付日の基準価額（基準価額は1万口当たりで表示しています。）
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の基準価額
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として営業日の午後3時30分までに販売会社が受付けたものを当日分のお申込みとします。 なお、販売会社によっては異なる場合がありますので、詳しくは販売会社に お問い合わせください。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求に制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止することおよびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取り消す場合があります。

信託期間	無期限（2023年8月31日設定）
繰上償還	次のいずれかに該当する場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し、当該信託を終了（繰上償還）することがあります。 ・信託契約を解約することが受益者のために有利であると認める場合 ・純資産総額が30億円を下回ることとなった場合 ・やむを得ない事情が発生した場合
決算日	毎年8月16日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	年1回の毎決算日に、収益分配方針に基づいて収益分配を行います。 ※お申込コースには、「分配金受取コース」と「分配金再投資コース」があります。ただし、販売会社によっては、どちらか一方のみの取扱いとなる場合があります。詳細は販売会社までお問い合わせください。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時の値上がり益および償還時の償還差益に対して課税されます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度（NISA）の適用対象となります。 当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※税法が改正された場合等には、上記内容が変更となることがあります。

ファンドの費用

以下の手数料等の合計額、その上限額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。
※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

● 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に、**3.3%(税抜3.0%)**を上限として、販売会社が別に定める手数料率を乗じて得た額となります。
信託財産留保額	ありません。

● 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に対して**年率1.4575%(税抜1.325%)**
その他の費用・手数料	その他の費用・手数料として、お客様の保有期間中、以下の費用等を信託財産からご負担いただきます。 ・組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料 ・信託事務の処理に要する諸費用 ・外国での資産の保管等に要する費用 ・監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用　等 ※これらの費用等は、定期的に見直されるものや売買条件等により異なるものがあるため、事前に料率・上限額等を示すことができません。

投資信託に関する留意点

投資信託は、

●預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。

●購入金額については元本保証および利回り保証のいずれもありません。

●投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

当資料のお取扱いについてのご注意

●当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成した販売用資料です。

●お申込みに際しては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

●投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益は全て投資者のみなさまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

●当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

●当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

◆収益分配金に関する留意事項◆

●収益分配は、計算期間中に発生した運用収益（経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。））を超えて行われる場合があります。したがって、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

●受益者の個別元本の状況によっては、分配金の全額または一部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。個別元本とは、追加型投資信託を保有する受益者毎の取得元本のことで、受益者毎に異なります。

●分配金は純資産総額から支払われます。このため、分配金支払い後の純資産総額は減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。計算期間中の運用収益以上に分配金の支払いを行う場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。

委託会社およびファンドの関係法人

＜委託会社＞アセットマネジメントOne株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第324号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会
＜受託会社＞みずほ信託銀行株式会社
＜販売会社＞販売会社一覧をご覧ください。

委託会社の照会先

アセットマネジメントOne株式会社
コールセンター　0120-104-694
（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）
ホームページ　URL https://www.am-one.co.jp/

販売会社一覧（お申込み、投資信託説明書（交付目論見書）のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください）

○印は協会への加入を意味します。

2026年10月9日現在

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人資産運用業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	備考
株式会社みずほ銀行	登録金融機関　関東財務局長（登金）第6号	○		○	○	
みずほ信託銀行株式会社	登録金融機関　関東財務局長（登金）第34号	○	○	○		
みずほ証券株式会社 ※4	金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第94号	○	○	○	○	

●その他にもお取扱いを行っている販売会社がある場合があります。
また、上記の販売会社は今後変更となる場合があるため、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。
●販売会社によってお申込みの条件、制限等が異なります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
＜備考欄について＞
※1 新規募集の取扱いおよび販売業務を行っておりません。
※2 備考欄に記載されている日付からのお取扱いとなりますのでご注意ください。
※3 備考欄に記載されている日付からお取扱いを行いませんのでご注意ください。
※4 一般社団法人日本STO協会にも加入しています。

（原則、金融機関コード順）

指数の著作権などについて

東証株価指数(TOPIX)の指数値および東証株価指数(TOPIX)にかかる標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証株価指数(TOPIX)に関するすべての権利・ノウハウおよび東証株価指数(TOPIX)にかかる標章または商標に関するすべての権利はJPXが有しています。JPXは、東証株価指数(TOPIX)の指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証または販売されるものではなく、本商品の設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。